

登録コード	E2535900	開講年度	2026					
授業科目	造形基礎演習					担当教員	猪瀬 昌延 他	
英文授業名						副担当	大島 賢一・中野 良寿	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生		
講義室	共通教育401 演習室			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	現代社会における美術表現を幅広く知るとともに、美術教育を含めた制作実践的活動を行う事ができるようになる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	美術や造形表現活動における基本的知識と社会的意義及び、美術による教育の背景や可能性についての理解を深める事ができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	基礎的な造形実践を行うとともに、現代社会における美術教育を含めた、美術表現と社会の関係を理論的に学ぶ。							
(5)授業計画	第1回：初回ガイダンス（猪瀬昌延） 第2回：美術とは何であり、何でないのか（大島賢一） 第3回：絵画基礎Ⅰ（静物画）（中野良寿） 第4回：絵画基礎Ⅱ（静物画）（中野良寿） 第5回：絵画基礎Ⅲ（風景画）（中野良寿） 第6回：絵画基礎Ⅳ（風景画）（中野良寿） 第7回：現代アート基礎Ⅰ（境界と私）（中野良寿） 第8回：現代アート基礎Ⅱ（境界と私）（中野良寿） 第9回：「私」から美術を考える（大島賢一）「課題」 第10回：彫刻表現における西洋VS日本という構図（猪瀬昌延） 第11回：近代日本彫刻についてⅠ（猪瀬昌延）※集中授業 第12回：線・面・量の捉え方（猪瀬昌延） 第13回：近代日本彫刻についてⅡ（猪瀬昌延）※集中授業 第14回：ワイヤーワークの実践（猪瀬昌延） 第15回：作品の講評と授業のまとめ 「授業アンケート」（猪瀬昌延）							
(6)成績評価の方法	各教員の課題の平均点で評価を行う。							
(7)成績評価の基準	各担当教員が課す、課題や提出作品の成績により評価する。例えば課題における評価基準としては、i）問題の設定が適切、ii）論述方法が適切、iii）根拠のある論述、iv）自分の見解の提示の4観点を設定する。これらを一定水準以上に満たし、かつ、教員を感心させる質のものであれば「卓越している」、4項目を満たすのであれば、「かなり上にある」、3項目において一定水準以上であれば「やや上にある」、3項目において標準的であれば「水準である」と判断する。							
(8)事前事後学習の内容	前授業行った制作の続きと次授業までの制作到達目標の指示に従い制作を進めてから授業に臨むこと。各回授業内に次授業で必要となる用具や素材の準備等に関して説明を行う。							
(9)履修上の注意	事前の準備と事前事後の学習については、各担当教員の指示に従うこと。 制作課題などにおいて材料費が必要となる事がある。 教員の担当授業回が変更になる事があります。 ※「近代日本彫刻についてⅠ・Ⅱ」は12月中の集中授業となる。日程や場所等の詳細は、授業内で説明する。 ※60時間以上の時間外学習が必要となります。							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	オフィスアワー随時, 研究室 北校舎N112, 連絡先 minose@shinshu-u.ac.jp							
【教科書】	特になし							
【参考文献】	映像資料や作品集、参考作品など随時紹介する。							